

## 【演題名】 新型コロナ禍の中での新人教育について 診療放射線技師の立場から

【発表者・共同発表者】 江田 哲男<sup>1</sup>

【所属】 1、社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部東京都済生会 東京都済生会中央病院

### 【背景】

新型コロナ感染症拡大に伴い 2020 年 4 月に発出された緊急事態宣言により、養成校で授業や臨床実習教育を十分に受講できていない新卒入職者への教育方法が懸念されている。

### 【目的】

通常とは異なる新型コロナ禍での新人スタッフへの教育における指導者のストレスおよび新人スタッフのストレスについて調査し、新型コロナ禍での教育効果について知る。

### 【方法】

新人教育のカリキュラムを進める中で、指導者からみたストレスと新人スタッフへ教育期間中に感じたストレスについてアンケート調査を実施。

### 【結果】

新人スタッフは 4 名とも養成校で感染対策の教育を実施していた。指導者側のストレスは約 6 割が通年と変わらないとの回答であった。指導する検査でのストレスは新型コロナ陽性・疑い患者へのポータブルや救急 CT 検査であった。また、新人スタッフのストレスについては、指導者同様に新型コロナ陽性・疑い患者への対応であった。

### 【考察】

新人教育におけるストレスについては、平常時は発生しない感染防護指導がストレスと感じていた。また、指導者側で一番多かった業務は救命 CT 室であった。これは新型コロナ陽性・疑い患者のポジショニングや移動を指導者が実施し、新人は操作側にいるため、全くストレスを感じていなかった。指導者側も新人スタッフも新型コロナ陽性・疑い患者と対応するか否かが一番ストレスを発生させていた。

### 【結論】

- ◆ 指導スタッフは通年時とほぼ変わらない。
- ◆ 新人スタッフは入職前の業務イメージと同様。
- ◆ 新型コロナ禍によって、感染防護対策・感染症知識が向上。
- ◆ 病棟 Ns、医師とのコミュニケーションが活発に行われたことにより、チーム医療推進に繋がった。